

令和4年度第2回静岡県公立大学法人評価委員会（静岡県立大学法人）

日 時	令和4年8月8日（月）15時00分から15時15分まで
場 所	県庁別館9階第1特別会議室
出席者 職・氏名	〈委員〉 櫻井透（委員長）、伊東幸宏（委員長代理）、杉村美紀、酒井範子、山本真由美 〈事務局〉 京極スポーツ・文化観光部長、都築スポーツ・文化観光部長代理、吉良総合教育局長、 上野大学課長 他

議題1 令和3事業年度の業務実績に関する評価について

議題2 運営費交付金に反映する成果指標の判定について

事務局が資料1～4に基づき説明し、その後質疑を行った。

【質疑・意見の概要】

○評価案、成果指標の判定について（議題1、2）

<各委員>

（事務局の説明した評価案、成果指標の判定案に対し、特に意見及び質問なし）

<櫻井委員長>

- ・特に意見がないようなので、一部の字句の修正については、私に一任していただき、議題1、議題2について事務局案どおり承認するという事によろしいか。

<各委員>

（異議なし）

令和4年度第2回静岡県公立大学法人評価委員会（公立大学法人静岡文化芸術大学）

日 時	令和4年8月8日（月）15時15分から16時00分まで
場 所	県庁別館9階第1特別会議室
出席者 職・氏名	〈委員〉 櫻井透（委員長）、伊東幸宏（委員長代理）、杉村美紀、酒井範子、山本真由美 〈事務局〉 京極スポーツ・文化観光部長、都築スポーツ・文化観光部長代理、吉良総合教育局長、 上野大学課長 他

議題3 令和3事業年度の業務実績に関する評価について

議題4 第2期中期目標期間の業務実績に関する評価について

議題5 運営費交付金に反映する成果指標の判定について

事務局が資料5～10に基づき説明し、その後質疑を行った。

【質疑・意見の概要】

○議題4：第2期中期目標期間の業務実績に関する評価

①LMS（学習管理システム）の導入及び利活用について（議題4）

<伊東委員>

- ・資料6の2ページにあるNo.20「eラーニング等、高度なメディアを利用した教育方法を取り入れる」という項目について、大学の自己評価BからA評価に変更するという事務局案となっているが、平成30年度にLMSの導入を達成したことは、やっとできたという印象である。他大学に比べるとそれほど目立った成果ではなく、ようやく追いついたという感じを受けるので、B評価のままでよいのではないかと思う。

<杉村委員>

- ・オンライン授業を行う際には、成績の判定、レポートの提出や学生へのコメントの返信など、幅広くLMSを利用して行う大学が増えているので、システムを整備してしかるべきだという御意見はごもっともだと思う。
- ・平成30年度の導入は遅かったとは思いますが、この時に導入できていなかったら、コロナの時に大変なことになっていた。
- ・システムを導入することと、実際にそれを運用することはまた別問題である。コロナが理由だったとは思いますが、コロナの混乱の中、利用率を急激に上げたことは評価できる。
- ・システムの利用が得意な教員とそうでない教員がいる中で、利用率が9割というのは相当な数値であり、有効に使われていると思われる。
- ・コロナが終息しても有機的にシステムを利活用されるよう、今後の期待値も含めて、B評価をA評価としてよいと思う。

<酒井委員>

- ・私の大学では、コロナの最初の流行時に全教員が毎日のようにシステムの研修を行った。コロナ禍でまずはシステムを使い始め、その後、システム構築の主な担当教員が手直しを重ね、トラブルの起こらない、精度の高いものを完成させるまで、約1年半かかった。教員も2年間の経験を積んだ結果、今ではオンラインと対面を併用したハイブリッド方式の授業を有効に行えるようになったという経緯がある。
- ・大学には様々な雇用形態のいろいろな教員がいる中で、利用率を91%まで上げたこと、また、システムの中身も段々と改良したことは評価できる。
- ・システムを導入して一番良かったことは、事前に予習をさせ、課題を提出した上で授業への参加を認める、事後にはレポートを書き提出するという方法が実現でき、その内容を検証しながら授業を進めるということができるようになった。学生の自主学習の時間が増え、レポートを期限どおりに提出することが絶対のマナーであるということを学生が自覚するようになった。
- ・文芸大においても、システム導入後、オンラインの長所と短所を把握した上でハイブリッド方式を実施し、また、システムの内容の向上を図ってきたのであれば、教育の質も高まったはずなので、B評価をA評価にすることに賛成する。

<山本委員>

- ・大学の教育環境に詳しい委員の先生方の実感に基づき、システム導入のスピードと内容の充実度を勘案して評価上げるべきか御検討いただければと思う。

<伊東委員>

- ・我々の仕事は、法人の中期計画が達成されているかどうかチェックすることである。大学の掲げる「eラーニング等、高度なメディアを利用した教育方法を取り入れる」という中期計画は、平成30年度のLMSの導入をもって達成はされていると判断できる。しかし、平成30年度における導入は、計画以上に達成されていると評価すべき段階には到達していない。あえて言うならば、利用率がコロナのおかげでとても高くなったということは計画以上と言えるかもしれない。

<杉村委員>

- ・導入はしていても、実際に運用するには教員の努力が必要である。
- ・学生にとってはコロナ禍の命綱のような役割となっている。
- ・前もって予習を出し、その後に授業を受ける反転授業の実施や、システムを利用した教材の共有など、コロナの影響だけではなく、利用する教員がシステムの便利さを実感できているので、利用率が上がったと思う。今後の更なる活用を期待する。

<櫻井委員長>

- ・伊東委員がおっしゃるように、中期目標に対する大学の経営の姿勢として、平成30年度になってようやくシステムを導入し、コロナ禍でたまたま利用率が上がったことに対して、最高評価をつけていいかどうかという視点も一理あると思う。
- ・一方で、杉村委員、酒井委員がおっしゃるように、そうは言っても91%まで利用率が上がったことをどう評価するかという点も考慮すると、評価はAとする事務局案どおりと

して、「大学の経営として平成30年度からの導入は遅かった。コロナ禍が追い風となって、結果的に利用率を91%まで上げることができ、この努力に対してA評価とするが、今後も積極的にICTの教育に邁進してほしい」という意見を付けることでいかがか。

＜伊東委員＞

- ・LMS等のICTの教育への導入は、目的ではなく手段である。目的は教育の質及び学習の質が上がることなので、LMSの利活用をきちんと教育・学習の質の向上に繋げるよう意見を付けるということで結構かと思う。

②大学院の入学定員について（議題4）

＜杉村委員＞

- ・事務局の評価案で異論はない。
- ・文化政策研究科とデザイン研究科で入学者数の傾向が如実に出てきている。両研究科の定員比率を現状に見合った形で考えていただき、適正な配置に修正することはとても大事である。

③その他の意見について（議題4）

＜櫻井委員長＞

- ・期間評価について他に御意見・御質問はあるか。

＜各委員＞

（意見・質問なし）

＜櫻井委員長＞

- ・期間評価についてはこれで御了解いただいたこととする。

＜各委員＞

（意義なし）

○議題3：令和3事業年度の業務実績に関する評価

議題5：運営費交付金に反映する成果指標の判定

＜櫻井委員長＞

- ・年度評価及び成果指標の判定について御意見・御質問はあるか。

＜各委員＞

（特に意見・質問なし）

＜櫻井委員長＞

- ・特に意見がないようなので、一部の字句の修正については、私に一任していただき、議題3及び5について事務局案どおり承認するという事によろしいか。

＜各委員＞

（意義なし）